

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和2年 5月 15日

公表: 令和2年 10月 10日

※ チェック項目 ○=はい △=どちらともいえない ×=いいえ

事業所名 まんよう(福祉型)

	チェック項目	○	△	×	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			安全に活動ができるスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%			適切に加配している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	80%	20%		色分けやホワイトボード使用する等構造化を図っている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	90%	10%		業務終了後の清掃を実施し衛生管理、危険管理等環境への管理を日々実施している	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%		・周知が必要な書類を回覧形式にしている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	75%	15%		・周知が必要な書類を回覧形式にしている	職員間で改善項目について検討することはできているが目標を明確にし、共有することが課題。決定事項の共有を目標に取り組んでいく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%				・保護者の意向からあらたに設定した業務について周知徹底できるよう今後も検討していく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%		50%		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			・定期的に事業所内での研修を行っている。 ・開催頻度は高くないがスキルに合わせた研修を行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%			・毎週2ミーティング時間を設け支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%				
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	90%	10%			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			・チームに分かれプログラムの立案を行い全体で共有。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	90%	10%		・毎月(1週)特別プログラムの歳、季節感のあるおやつを提供している。	夏冬、季節に応じたイベントを開催。 ・長期イベントに関しても、念入りに設定・準備を行っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	100%			基本のプログラムは変わらないが、日々の療育内容に変化をつけ行っている。 ・遊びの選択ができるように遊具環境を工夫している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%		・朝礼後のミーティングで行っている。	・改善されている
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%		支援終了後は送迎や日誌の作成で時間がないため、翌日の朝礼後行っている。 ・特別な事項があった際などは、その日のうちに情報交換している。	

19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	90%	10%	<ul style="list-style-type: none"> ・記録(個別日誌)に児童の目標(支援 P)を記載し、日々確認し療育にあたっている。 ・少ない時間の中でできる限りの記載をしている。 	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	90%	10%	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書作成前に必ずミーティングを行っている。 	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	90%	10%			・行っているが十分ではない。課題である対応可能な職員の育成に務める。(継続)
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	90%	10%		保護者に学校との情報共有についての可否を確認している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	90%	10%		対象となる児童がいない。	・対象となる児童を受け入れた場合は保護者を通して行っていく。主治医等との連絡調整が難しいことが課題。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	90%	10%		対象となる児童がいない。	・対象となる児童を受け入れた場合は保護者を通して行っていく。主治医等との連絡調整が難しいことが課題。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	90%	10%		・保護者の要望がある際は行っており、支援プラン等共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	90%	10%		保護者の要望がある際は行っており、支援プラン等共有している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	90%	10%		・研修には多くのスタッフに参加してもらった。 ・センターとは高頻度でやりとりしている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	90%	10%			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	90%	10%		極力行けるようにしている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	90%	10%		連絡帳や電話でのやり取りなど工夫している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	90%	10%		計画的には実施していない。必要時に支援を行っている	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				・契約前の見学の際にはお子様に体験もいただき利用者負担等についてもパンフレットをお渡しし説明している。(継続)
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%			同意を得ている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	90%	10%		・保護者からの希望に応え面談等行っている。(継続)	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	90%	10%		・毎月お便りの発行にてお知らせ等実行している。(継続)	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	90%	10%		毎日行っている朝礼(全職員参加)で保護者様からの注意事項についても共有している。(継続)	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	90%	10%		・連絡帳にてやり取りを行っている。 ・定期的な面談の他、電話での情報交換	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%			・同意書を得ている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	90%	10%		・連絡帳にてやり取りを行っている。 ・定期的な面談の他、電話での情報交換	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	90%	10%		地域の方々と関わる機会がもてるような活動計画を1回/月実施している	事業所の行事に地域の方を招待する等については今後検討していく。個人情報の漏洩が課題。(継続)

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%			・マニュアルを配布している。(継続)	・周知しているがいざというときに動けるような事前準備を行う。(継続)
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			・4月・9月年2回開催。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	90%	10%		毎年聴き取り日を設けて状況把握を行っている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	90%	10%		・アレルギーの注意が必要な児童一覧表を作成	・保護者からの申し出のみとなっているため、医師の指示書を見せて頂けるよう働きかける。(継続)
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			・事故報告書の担当がヒヤリハットを作成、事業所内で共有することができた。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			・マニュアルによる周知	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%				・やむを得ず身体拘束を行うかについては、研修を踏まえ決定する。児童発達支援計画に記載するかは都度検討していく。(継続)

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。